15th TOUR OF JAPAN

2012.5／20sun ▶ 27sun

報告書

日本が生んだ世界のスポーツ
KEIRIN

この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。
http://ringring-keirin.jp

目次 Contents

目次・大会日程・実施概要・大会役員・開催地イラスト… 01
今中大介の総括…… 02
チームリスト…… 03
第１ステージ【　堺　】競技結果 …… 05
第２ステージ【 美濃 】競技結果 …… 07
第３ステージ【南信州】競技結果 …… 09
第４ステージ【富士山】競技結果 …… 11
第５ステージ【 伊豆 】競技結果 …… 13
第６ステージ【 東京 】競技結果 …… 15
リザルト…… 17
広報ツール…… 19
パブリシティ【テレビ】…… 20
パブリシティ【新聞・WEB・雑誌】…… 21
会場風景…… 25

大会日程 Race Schedules

5月20日（日）	堺ステージ	13：40スタート	2.65km
May20（Sun）	Sakai stage	Start at 13：40	
5月22日（火）	美濃ステージ	09：15スタート	160.7km
May22（Tue）	Mino stage	Start at 09：15	
5月23日（水）	南信州ステージ	08：45スタート	148.0km
May23（Wed）	Minami Shinshu stage	Start at 08：45	
5月25日（金）	富士山ステージ	10：00スタート	11.4km
May25（Fri）	Fujisan stage	Start at 10：00	
5月26日（土）	伊豆ステージ	09：30スタート	146.4km
May26（Sat）	Izu stage	Start at 09：30	
5月27日（日）	東京ステージ	11：00スタート	112.7km
May27（Sun）	Tokyo stage	Start at 11：00	

総走行距離：581.85km

大会実施概要 Outline of The Race

●**名　　称**　UCI公認国際自転車ロードレース
15th TOUR OF JAPAN

●**主　　催**　自転車月間推進協議会

●**主　　管**　TOUR OF JAPAN組織委員会
(事務局:㈶日本自転車普及協会)

●**競技主管**　㈶日本自転車競技連盟

●**後　　援**
内閣府/総務省/文部科学省/経済産業省/国土交通省/東京都/
大阪府/㈶JKA/朝日新聞社/日刊スポーツ新聞社

●**協　　力**
堺市/岐阜県/美濃市/飯田市/飯田観光協会/
小山町(静岡県駿東郡)/伊豆市/
㈶日本サイクルスポーツセンター /東京港埠頭㈱

●**特別協賛**
三菱電機㈱/SPEEDチャンネル/日本トーター㈱/富士重工業㈱

●**協　　賛**
㈱Champion System Japan/THULE/
プロショップタカムラ製作所/ヤマハ発動機㈱/
サントリー食品インターナショナル㈱/㈱シマノ/SBAA/
㈱マトリックス/アメアスポーツジャパン㈱/
芙蓉総合リース㈱/東京海上日動火災保険㈱/㈱NIPPO/
パナソニックサイクルテック㈱/ブリヂストンサイクル㈱/
東京サンエス㈱/㈱深谷産業/㈱インターマックス/㈱みずほ銀行

大会役員 Officials

会長　The Chairman
石黒克巳　ISHIGURO Katsumi

副会長　Vice-Presidents
渡辺恵次　WATANABE Keiji
野沢隆寛　NOZAWA Takahiro

監事　Auditor
小林昭　KOBAYASHI Akira

委員長　Committee Chairman
渋谷良二　SHIBUYA Ryoji

副委員長　Committee Vice-Chairman
斧隆夫　ONO Takao
松倉信裕　MATSUKURA Nobuhiro

委員　Members Committee
新井茂　ARAI Shigeru
川口雄　KAWAGUCHI Takeshi
佐藤成美　SATO Shigemi
長澤恵一　NAGASAWA Keiichi
加藤元彦　KATO Motohiko
西村一人　NISHIMURA Kazuto
中澤見山　NAKAZAWA Kenzan
福田悦裕　FUKUDA Yoshihiro
諸星利雄　MOROBOSHI Toshio
奥田悦司　OKUDA Etsuji
佐々木正人　SASAKI Masato
中村雅章　NAKAMURA Masaaki
飯田太文　IIDA Tamon

大会オフィシャルコメンテーター

今中大介の総括

本気の戦いを挑んでくれた。それが観客の人たちの感動につながったんでしょうね。

今回のTOJは、感動的な話がいっぱいありました。ジロ・デ・イタリアで山岳賞2位、3位という経歴を持つフォルッナート・バリアーニ（チームNIPPO= 総合優勝）でさえも、このTOJにニヶ月の準備を要したといっていました。それだけの強い思いを持ってここへ来てくれているという事を、率直にうれしく感じました。スポンサーへのご恩、オーガナイザーへの思いなどを強く持って、そして実力を発揮してくれた、本気の戦いを挑んでくれた。それが観客の人たちの感動につながったんでしょうね。

そして、最終の東京ステージを残す第5ステージまで日本人にはジャージも区間優勝もなく、鈴木譲選手（ シマノレーシング）の総合6位だけという雰囲気、チームNIPPOがもしかすると総合、山岳賞、ポイント賞の3賞を独占するかもしれないという状況のなかで、最後に日本人にとって最大の喜びをもたらしてくれた西谷泰治選手（愛三工業レーシング）のスプリントには、ありがとうという言葉を述べたいです。彼のポイント賞ジャージ獲得は、東京ステージでの勝利への執念がなければ達成できなかった。中間スプリントとゴールどちらも狙わないといけない状況で、彼は優勝という最高のかたちで逆転劇を演じた。本当に素晴らしかったですね。

しかし、このレースは厳しかったですね。バリアーニやアレドンド（ジュリアン・アレドンドモレノ=チームNIPPO）など、彼らのような上りのレースのスペシャリストをして「世界でもまれに見る」という表現を使うくらいに非常にキツいレースでした。こういったレースを日本で開催することは、選手たちのモチベーションを上げてくれることになります。「ここで成績を出せば世界でも通用する」という意味です。

たとえば、佐野淳哉選手（チームNIPPO ）です。シーズン序盤の落車のあとということで、満足な状態でないままここへ来て、しかしあれだけの走りをしてくれました。チームのアシストとして働いて、しかも総合9位です。彼のような、UCI 1クラスで成績を出している選手が、世界に通じる選手、別府史之（オリカ・グリーンエッジ）、宮澤崇史（サクソバンク）、新城幸也（ユーロップカー）、そして土井雪広（ アルゴス・シマノ）のような、世界の一角に食い込んでくれる選手になってくれるのを、僕は待ち望んでいます。

TOJは例年、総合成績では富士山ステージがポイントになりますが、富士山では清水都貴選手（ブリヂストン・アンカー）ががんばってくれました。増田成幸選手（宇都宮ブリッツェン）は42分33秒と、日本人でトップのタイム（ これまでのTOJ歴代日本人トップは43分30秒=狩野智也）を出しました。トップとの差がだんだん詰まっていくんだと思います。ジロの山岳で活躍するような選手は、ハンパじゃなく強い。こういうレースがあるからこそ、スリムでパワフルという選手が出てくるのでしょうし、若手の成長にもつながります。TOJがあることが、日本人選手にとって非常に大事であることを、今回改めて実感しました。（談）

チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム　CHN（中国）

No.	Name/ 選手名	
1	クリス・バトラー	BUTLER Chris
2	ウィル・クラーク	CLARKE Will
3	シュー・ガン	XU Gang
4	ジャオ・ペンダ	JIAO Peng Da
5	アディク・オスマン	OTHMAN Adiq
6	キャメロン・ワーフ	WURF Cameron

アモーレ・エ・ヴィータ　UKR(ウクライナ)

No.	Name/ 選手名	
11	マクシム・アヴェリン	AVERIN Maksym
12	パトリック・モレン	MOREN Patrik
13	ヨフチョ・ヨフケフ	YOVCHEV Yovcho
14	ヤロスラフ・ダブロフスキ	DABROWSKI Jaroslaw
15	ヴィエスターズ・ルクセヴィクス	LUKSEVICS Viesturs
16	マリーノ・パランドリ	PALANDRI Marino

ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ　AUS（オーストラリア）

No.	Name/ 選手名	
21	ショー・パトリック	PATRICK Shaw
22	キャンベル・フレークモア	FLAKEMORE Campbell
23	ネイサン・アール	EARLE Nathan
24	ジョナサン・ラブロック	LOVELOCK Jonathan
25	アンソニー・ジャコッポ	GIACOPPO Anthony
26	カイル・マーウッド	MARWOOD Kyle

トレンガヌ・サイクリングチーム　MAS(マレーシア)

No.	Name/ 選手名	
31	チャンジェ・ジャング	JANG Chan Jae
32	アヌアル・アジズ	AZIZ Mohd Saiful Anuar
33	福島　晋一	FUKUSHIMA Shinichi
34	シャルル・アミン	MAT AMIN Mohd Shahrul
35	ウマディ・ロズリィ	ROSDI Mohd Nor Umardi
36	アミルル・ファクルディン・マズキ	MAZUKI Nur Amirull Fakhruddin

OCBC シンガポール・コンチネンタルサイクリングチーム　SIN(シンガポール)

No.	Name/ 選手名	
41	シーケオング・ロー	LOH Sea Keong
42	ダレン・ロウ	LOW Darren
43	ジーウェン・ロウ	LOW Ji Wen
44	チューンファット・ゴー	GOH Choon Huat
45	ハイダー・アヌワー	ANUAWAR Ahmad Haidar
46	ニコラス・フランチェスコ・スクィラリ	SQUILLARI Nicholas Francesco

ホンコンチーム　HKG（香港）

No.	Name/ 選手名	
51	ワン・カンポー（黄金寶）	WONG Kam Po
52	ヤン・インホン･ロナルド（楊英瀚）	YEUNG Ying Hon Ronald
53	チャン・ジンラ（張敬樂）	CHEUNG King Lok
54	チャン・ジンウェイ（張敬煒）	CHEUNG King Wai
55	チェン・イーウェイ（陳逸瑋）	CHAN Yat Wai
56	グウォ・ハオティン（郭灝霆）	KWOK Ho Ting

愛三工業レーシングチーム　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
61	西谷　泰治	NISHITANI Taiji
62	鈴木　謙一	SUZUKI Kenichi
63	品川　真寛	SHINAGAWA　Masahiro
64	福田　真平	FUKUDA Shimpei
65	伊藤　雅和	ITO Masakazu
66	木守　望	KIMORI Nozomu

ブリヂストン・アンカー　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
71	トマ・ルバ	LEBAS Thomas
72	清水　都貴	SHIMIZU Miyataka
73	吉田　隼人	YOSHIDA Hayato
74	伊丹　健治	ITAMI Kenji
75	西薗　良太	NISHIZONO Ryota
76	ブレイズ・ソノリー	SONNERY Blaise

チームリスト

キャノンデール・スペースゼロポイント　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
81	鈴木　真理	SUZUKI Shinri
82	小室　雅成	KOMURO Masanari
83	高田　雄太	TAKADA Yuta
84	原川　浩介	HARAKAWA Kosuke
85	岡　泰誠	OKA Yasumasa
86	遠藤　績穂	ENDO Sekiho

マトリックス・パワータグ　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
91	マリウス・ヴィズィアック	WIESIAK Mriusz
92	山下　貴宏	YAMASHITA Takahiro
93	小牧　祐也	KOMAKI Yuya
94	安原　大貴	YASUHARA Daiki
95	池部　壮太	IKEBE Sota
96	真鍋　和幸	MANABE Kazuyuki

シマノレーシングチーム　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
101	畑中　勇介	HATANAKA　Yusuke
102	鈴木　譲	SUZUKI Yuzuru
103	平塚　吉光	HIRATSUKA Yoshimitsu
104	入部　正太朗	IRIBE Shotaro
105	野中　竜馬	NONAKA Ryoma

チーム NIPPO　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
111	ジュリアン・アレドンド モレノ	AREDONDO MORENO Julian
112	フォルッナート・バリアーニ	BALIANI Fortunato
113	マキシミリアーノ・リケーゼ	RICHEZE Maximiliano
114	マウロ・アベル・リケーゼ	RICHEZE Mauro abel
115	佐野　淳哉	SANO Junya
116	内間　康平	UCHIMA Kohei

チーム UKYO　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
121	狩野　智也	KANO Tomoya
122	清水　良行	SHIMIZU Yoshiyuki
123	辻　善光	TSUJI Yoshimitsu
124	斉藤　祥太	SAITO Shota
125	嶌田　義明	SHIMADA Yoshiaki
126	佐藤　知紀	SATO Tomonori

宇都宮ブリッツェン　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
131	廣瀬　佳正	HIROSE Yoshimasa
132	普久原　奨	FUKUHARA Masaru
133	中村　誠	NAKAMURA Makoto
134	増田　成幸	MASUDA Nariyuki
135	初山　翔	HATSUYAMA Sho
136	飯野　智行	IINO Tomoyuki

パールイズミ・スミタ・ラバネロ　JPN（日本）

No.	Name/ 選手名	
141	栂尾　大知	TOGAO Taichi
142	大久保　陣	OKUBO Jin
143	上村　領佑	UEMURA Ryosuke
144	高塚　亮輔	TAKATSUKA Ryosuke
145	藤岡　克磨	FUJIOKA Katsuma
146	鈴木　近成	SUZUKI Motonari

日本学生自転車競技連盟選抜　JPN(日本)

No.	Name/ 選手名	
151	山本　元喜	YAMAMOTO Genki
152	黒枝　士揮	KUROEDA Shiki
153	木村　圭祐	KIMURA Keisuke
154	大中　巧基	OHNAKA Kohki
155	安井　雅彦	YASUI Masahiko
156	山本　隼	YAMAMOTO Shun

第1戦

堺ステージ 競技結果

個人総合時間賞	ウィル・クラーク｜チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム
個人総合ポイント賞	ウィル・クラーク｜チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム

第1ステージ 1st Stage 堺 Sakai

5.20 sun

大仙公園周回コース
走行距離(個人タイムトライアル) 2.65㎞
スタート 13:40

【区間1位プロフィール】
ウィル・クラーク（チャンピオンシステム）

1985年4月11日生まれ、オーストラリア国籍。2010年にジェネシスからフランスのプロチームag2rに研修生として入団、2011年はレオパード・トレックに所属した。今シーズンはツアー・ダウンアンダーの第2ステージで独走逃げ切り勝利を飾っている。

ステージ優勝は、ウィル・クラーク 日本人トップは、西谷泰治(4位)

ツアー・オブ・ジャパンの第1ステージは、大阪府堺市にある大仙公園の周辺道路を使って行われる個人タイムトライアルで幕を開けた。国内外から参加する16チーム93人の選手たちは、30秒ごとにスタート台を駆け下り、2.65kmのコースを全力疾走する。午後1時40分、先頭の走者である木村圭祐(学連選抜)がスタートしていき、第15回ツアー・オブ・ジャパンが始まった。

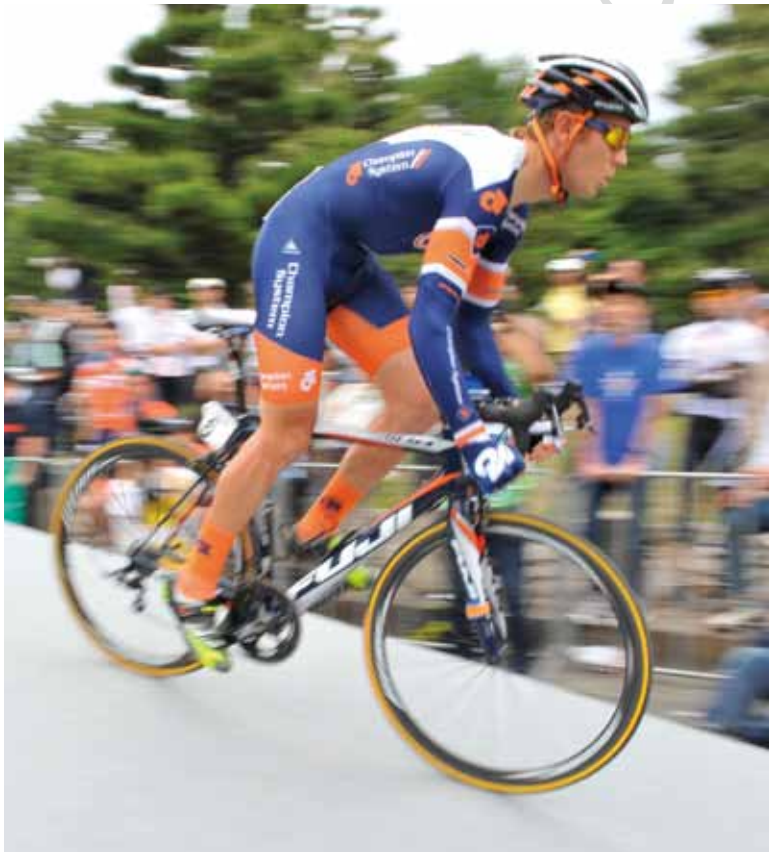
10番目にスタートした福島晋一（トレンガヌ・サイクリングチーム）が暫定トップのタイムを出したが、すぐにウィル・クラーク（チャンピオンシステム）によって塗り替えられる。クラークは2.65kmを3分19秒31（時速47.8km）と、ただ一人3分20秒を切る好タイムを出したが、結果的に上位の選手はほぼ3分30秒を切るタイムであった。

最終走者はチャンピオンシステムのキャメロン・ワーフ。彼は3分20秒90というタイムを出して2位となり、同じチームで1、2位を獲得した。表彰台ではクラークが総合首位の証となるグリーンのリーダージャージに袖を通し、同時に青いポイント賞リーダージャージも手に入れた。2日後の美濃ステージでは、繰り下がりでワーフがポイント賞ジャージを着て走ることになる。27歳のクラークは「直前に走ったクリテリウムが、タイムトライアルのいいウォームアップになった。自分の脚はいい感触だし、チームメートも調子がいい。この先もいいリザルトを狙っていきたい。自身のゴールはやはりツール・ド・フランスなどのグランツール出場だ」とコメントした。

天　候	気　温	観 客 数
くもり	23.9℃	84,000人

（13時現在）

Sakai 第1ステージ 1st Stage 堺



●実況ブース（左）から芦田氏、今中氏、今西氏

●表彰式プレゼンター　斧隆夫 堺st実行委員長

堺ステージ上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	ウィル・クラーク	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	3分19秒31
2	キャメロン・ワーフ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.01”.59
3	ヂャン・ジンラ（張敬樂）	香港チーム	+.02”.34
4	西谷泰治	愛三工業レーシングチーム	+.02”.36
5	マウロ・アベル・リケーゼ	チーム NIPPO	+.03”.98

堺ステージ個人総合上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	ウィル・クラーク	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	3分19秒
2	キャメロン・ワーフ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.01
3	ヂャン・ジンラ（張敬樂）	香港チーム	+.02
4	西谷泰治	愛三工業レーシングチーム	+.02
5	マウロ・アベル・リケーゼ	チーム NIPPO	+.04

第2戦

美濃ステージ 競技結果

個人総合時間賞	マキシミリアーノ・リケーゼ｜チーム NIPPO
個人総合ポイント賞	マキシミリアーノ・リケーゼ｜チーム NIPPO
個人総合山岳賞	畑中勇介｜シマノレーシングチーム

【区間1位プロフィール】
マキシミリアーノ・リケーゼ（チームNIPPO）

1983年3月7日生まれの29歳、アルゼンチン国籍。2006年にチェラミケ・パナリアでプロデビューし、その年のジロ・デ・イタリアでステージ2位に入るなどスプリンターとして活躍。2011年にダンジェロ・アンティヌッチィ NIPPOに入り現在に至る。

ステージ優勝は、マキシミリアーノ・リケーゼ、日本人トップは、西谷泰治（6位）

岐阜県・美濃市で行われた第2ステージは、うだつのある町並みで知られる美しい通りからスタートした。「サイクルシティ美濃」を標榜する同市は、「和紙とうだつの上がる町並み」をキャッチコピーにツアー・オブ・ジャパンを歓迎してくれている。スタートでは古田肇岐阜県知事、石川道政美濃市長が挨拶し、さらに自転車にまたがって選手たちのパレードの先導を務めた。また、美濃ケーブルテレビとくりらじが共同で、ネットでのライブ中継を試みた。

長良川沿いの周回コースに入るとレース開始。リーダージャージを抱えるチャンピオンシステムがレースをコントロールしようとする。シマノレーシングの畑中勇介と宇都宮ブリッツェンの中村誠がアタックして集団を抜け出し、最大3分15秒の差を開いてレースを有利に運んだ。しかし、終盤になってチャンピオンシステムの選手たちがペースアップして前の2人を捕らえ、レースは振り出しに戻ってしまう。

本コース唯一の上り、大矢田トンネルへの坂で集団は活性化するが、1km弱の上りでは大きく引き離すことができず、3kmほどの下りで集団はひとつになってしまう。

結局、50人ほどの大集団でのゴールとなり、チームNIPPOのリケーゼ兄弟が両手を挙げてフィニッシュラインを駆け抜けた。個人総合のリーダージャージも、兄のマキシミリアーノ・リケーゼに渡ることになった。リケーゼは「チームはしっかり集団をコントロールしてくれたので、最後を決めることができてほっとした。NIPPOという日本企業がスポンサーなので、がんばりたい」と喜びを語った。

天　候	気　温	観 客 数
くもり	21.1℃	15,000人
（9時現在）		

2nd Stage 第2ステージ Mino 美濃

●UCIチーフコミセール
ウェイン・ポマリオ氏

●表彰式プレゼンター　石川道政 美濃市長

美濃ステージ上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	マキシミリアーノ・リケーゼ	チーム NIPPO	3 時間 49 分 26 秒
2	マリウス・ヴィズィアック	マトリックス・パワータグ	+.00.00
3	ショー・パトリック	ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ	+.00.00
4	マウロ・アベル・リケーゼ	チーム NIPPO	+.00.00
5	マクシム・アヴェリン	アモーレ・エ・ヴィータ	+.00.00

美濃ステージ個人総合上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	マキシミリアーノ・リケーゼ	チーム NIPPO	3 時間 52 分 40 秒
2	ウィル・クラーク	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.00.05
3	マウロ・アベル・リケーゼ	チーム NIPPO	+.00.06
4	キャメロン・ワーフ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.00.06
5	西谷泰治	愛三工業レーシングチーム	+.00.07

第3戦

南信州ステージ 競技結果

個人総合時間賞	ジュリアン・アレドンドモレノ｜チーム NIPPO
個人総合ポイント賞	マキシミリアーノ・リケーゼ｜チーム NIPPO
個人総合山岳賞	畑中勇介｜シマノレーシングチーム

ステージ優勝は、ジュリアン・アレドンドモレノ、日本人トップは、鈴木譲（6位）

一周12.2kmを12周、上り標高差を累積すると3000mになるという強烈な山岳コース、南信州ステージ。前日夕方の雨のおかげでスッキリと晴れ渡った空に、まだ雪が残る中央アルプスの山々がちらりと見える壮大なルートだ。

スタートはJR飯田駅前だ。牧野光朗飯田市長が自転車ウエア姿で挨拶し、地元の選手、ボンシャンスキッズとともに市街地のパレードを先導して走行した。天竜川沿いの堤防を走り、水神橋を渡ってホテル・よし乃亭の横を通り、レースが始まった。

序盤からアタックが続き、上りでバラバラになるが下りでなんとか追いつく、の繰り返しは、選手たちを徐々に疲弊させていった。2人ほどの逃げが行っても、そこで集団が落ち着くことはない。追走集団が形成され、前方で合流してグループができあがる。後方の選手はどんどん体力を奪われ、なんと20名が最終周回に入ることができなかった。

残り5周でできた13人の先頭グループは、有力チームがほぼ1人ずつ入ったのに対し、アモーレ・エ・ヴィータが2人、チームNIPPOは3人を残し、これが最後まで効くことになる。残り2周でチームNIPPOのジュリアン・アレドンドモレノが上りで加速し、先頭のメンバーを4人にまで絞り込んだ。さらに最終周回でも同じくアレドンドがアタック、チームメートのフォルッナート・バリアーニとともにゴールの松尾総合運動場へ。チームNIPPOの強さが際立ったステージとなった。地元に住む福島晋一（トレンガヌ・サイクリングチーム）は36位に終わった。

天　候	気　温	観客数
晴　れ	15.2℃	35,000人
（8時現在）		

Minami Shinshu
第3ステージ
3rd Stage 南信州

信州 Minami Shinshu

5.23 wed

飯田駅前→下久堅周回コース→松尾総合運動場前
走行距離：148.0km パレード7.3km（12.2km×12周）＋ 1.6km
スタート　08：45

【区間1位プロフィール】
ジュリアン・アレドンドモレノ（チームNIPPO）

1988年07月30日コロンビア生まれ、23歳。2008年に19歳でイタリアのチームに入り、2010年にはベビージロで区間2位に入るなど、厳しいレースで上位入賞を重ねた。2010年ジーロングの世界選U23で72位。これに目を止めた大門宏監督がチームに招き、TOJでその才能を開花させた。

●南信州st名物「焼き肉ポイント」

●表彰式プレゼンター　牧野光朗 飯田市長

南信州ステージ上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO	3 時間 58 分 37 秒
2	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	+.00.00
3	トマ・ルバ	ブリヂストン・アンカー	+.01.19
4	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ	+.01.19
5	キャメロン・ワーフ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.01.54

南信州ステージ個人総合上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO	7 時間 51 分 24 秒
2	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	+.00.01
3	トマ・ルバ	ブリヂストン・アンカー	+.01.31
4	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ	+.01.38
5	キャメロン・ワーフ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.01.53

第4戦

富士山ステージ 競技結果

個人総合時間賞	フォルッナート・バリアーニ｜チーム NIPPO
個人総合ポイント賞	マキシミリアーノ・リケーゼ｜チーム NIPPO
個人総合山岳賞	フォルッナート・バリアーニ｜チーム NIPPO

第4ステージ

4th Stage 富士山 Fujisan

5.25 fri

ふじあざみライン入口→富士山須走口5合目
走行距離（ヒルクライム） 11.4km
スタート 10:00

ステージ優勝は、フォルッナート・バリアーニ、日本人トップは、増田成幸（6位）

標高2000m近く、富士山の須走口5合目まで標高差1200mを一気に上る、ふじあざみライン。以前はここを個人タイムトライアルで上ったTOJだが、今は全員が一斉にスタートするロードレース形式となった。レース時間は1時間弱と短いステージだが、ペダリングを止めると即座に自転車が止まってしまう急坂の連続なので、まったく休むヒマがない。選手にとっては強烈に辛いステージだ。

早朝にはまだ見えていた富士山だが、スタートのときには厚い雲に覆われてしまった。込山正秀小山町町長の号砲一発、選手が一斉に上り始める。スタートから2kmほど、道は直線的に上るため、選手たちからは先頭も最後尾もよく見える。そして、追いつくことができないことも……。

選手たちに雨が当たり始め、早くも先頭は20人ほど、特にブリヂストンアンカーの清水都貴が積極的にペースを作った。時速は25km、オーバーペースといえるくらいのピッチだ。同チームのトマ・ルバやブレイズ・ソノリーのアシストとしての動きのようだ。先頭グループが11人になると、そこに残った日本勢は増田成幸（宇都宮ブリッツェン）ただ一人。その増田もこのグループへのコンタクトを失うと、自分のペースでの走りに切り替え、上位への生き残りを図った。

先頭ではゼッケン1番のクリス・バトラー（チャンピオンシステム）が積極的にペースを上げ、これに対してフォルッナート・バリアーニとジュリアン・アレドンドモレノ（いずれもチームNIPPO）が応戦。続いてバリアーニがアタックしてバトラーを切り離し、アレドンドはバリアーニと10秒ほどの差を保ってゴールを目指した。区間勝利はバリアーニ、タイムは40分23秒。コースレコードまであと2秒と迫る好タイム。アレドンドに19秒の差をつけ、総合リーダージャージを手に入れた。

【区間1位プロフィール】
フォルッナート・バリアーニ（チームNIPPO）

1974年7月6日イタリア生まれ。セライタリアやバナリアなど有力プロチームに所属し、これまでジロ・デ・イタリアには7回出場、2008年には総合12位（総合優勝はコンタドール）という成績を修めている。2011年にダンジェロ・アンチヌッティNIPPOに所属しツール・ド・熊野で総合優勝している。

天　候	気　温	観 客 数
雨	17,6℃	3,800人
（10時現在）		

第4ステージ
4th Stage 富士山
Fujisan

●富士山stスターター込山正秀 小山町長

●表彰式プレゼンター　齋藤礼志 小山町観光協会会長

富士山ステージ上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	40 分 23 秒
2	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO	+.00.19
3	クリス・バトラー	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.00.58
4	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ	+.01.44
5	トマ・ルバ	ブリヂストン・アンカー	+.01.58

富士山ステージ個人総合上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	8 時間 31 分 48 秒
2	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO	+.00.18
3	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ	+.03.21
4	トマ・ルバ	ブリヂストン・アンカー	+.03.28
5	クリス・バトラー	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.06.12

第5戦

伊豆ステージ 競技結果

個人総合時間賞	フォルッナート・バリアーニ｜チーム NIPPO
個人総合ポイント賞	マリウス・ヴィズィアック｜マトリックス・パワータグ
個人総合山岳賞	ジュリアン・アレドンドモレノ｜チーム NIPPO

ステージ優勝は、ワン・カンポー、日本人トップは、黒枝士揮（9位）

静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンターには5kmサーキットがあるが、これに周辺道路を組み合わせて用意されたのが今回の12.2kmコース。日本競輪学校や昨年完成した伊豆ベロドロームの横を通る設定は、サーキットコースというより一般公道の周回に近いイメージとなった。

スタートラインでは地元出身のシマノレーシング野寺秀徳監督、そして同チームの平塚吉光選手が紹介され、集まった大勢の観客が拍手を贈った。この日は晴天ながら富士山はレース1周目にして姿を隠してしまい、海外からの選手たちにマウントフジを紹介することは今日も叶わなかった。

レースは、総合優勝が遠ざかり、区間勝利を狙う日本勢が主体となって序盤の逃げを決めた。アタックしたのは平塚吉光（シマノレーシング）ら2人、これに数人が合流し、ハイペースでメイン集団を引き離した。

しかし総合成績3位の選手が3分差なので、リーダージャージを抱えるチームNIPPO的には3分差までが総合を守るための安全圏だった。そして定石通り2分台のリードのまま、先頭にいた清水都貴（ブリヂストンアンカー）が機材トラブルで後退すると、後続集団の牽引役はチームNIPPOからアンカーに代わり、やがて先頭は最終周回に入る前になって全員が吸収された。

ゴールを狙うアタック合戦のあと、5人の先頭グループがフィニッシュラインへと突き進んだ。1kmという長い上りのゴールスプリントを制したのはワン・カンポー。彼はTOJ通算3勝目をこの伊豆で成し遂げた。

天　候	気　温	観 客 数
晴　れ （9時現在）	22.3℃	16,000人

第5ステージ 5th Stage Izu 伊豆

【区間1位プロフィール】
ワン・カンポー（香港チーム）

1973年3月13日香港生まれ、39歳。2007年世界選手権スクラッチ優勝、1998年、2006年、2010年アジア大会ロード優勝など、ロードとトラックを両方走る「アジアの虎」。ツール・ド・おきなわ4勝、2004年ツール・ド・北海道総合優勝など、日本での勝歴も数多い。5月25日現在アジアツアーランキング1位で、TOJにはアジアンリーダージャージを着用しての参加となった。

●表彰式プレゼンター　菊地豊 伊豆市長

伊豆ステージ上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	ワン・カンポー（黄金寶）	香港チーム	4 時間 32 分 10 秒
2	ジャオ・ペンダ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.00.02
3	シュー・ガン	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.00.04
4	ブレイズ・ソノリー	ブリヂストン・アンカー	+.00.11
5	ヤン・インホン・ロナルド（楊英瀚）	香港チーム	+.00.27

伊豆ステージ個人総合上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	13 時間 5 分 5 秒
2	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO	+.00.22
3	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ	+.03.23
4	トマ・ルバ	ブリヂストン・アンカー	+.03.30
5	クリス・バトラー	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.06.16

第6戦

東京ステージ 競技結果

個人総合時間賞	フォルッナート・バリアーニ｜チーム NIPPO
個人総合ポイント賞	西谷泰治｜愛三工業レーシングチーム
個人総合山岳賞	ジュリアン・アレドンドモレノ｜　チーム NIPPO

総合優勝は、フォルッナート・バリアーニ、ステージ優勝は、西谷泰治

最終ステージ、東京はきれいに晴れた。11kmと短かった富士山ステージ以外、今年のTOJは雨が降らなかったことになる。62人が日比谷シティ前のスタートラインに立ち、石黒克巳JKA会長のピストルの合図でスタートしていった。

今日の注目はポイント賞の行方だ。昨日の第5ステージ終了時点でポイント賞ジャージはマリウス・ヴィズィアック（マトリックス・パワータグ）、しかし2ポイント差の2位に西谷泰治（愛三工業）がいた。このステージで3回設定されているポイント賞は、1位通過でそれぞれ5ポイントがつくから、この差は容易に逆転できる。日本勢唯一の表彰台を賭けて、西谷は全精力を区間勝利と、それに伴うはずのポイント賞に集中した。

大井ふ頭の周回コースに入ると、強い風のなかでアタックが繰り返された。シマノの畑中勇介、鈴木譲、宇都宮ブリッツェンの普久原奨、初山翔、中村誠、増田成幸。しかし、その誰もが10秒程度しか集団を離すことはできない。チームNIPPOの鉄壁のアシスト、内間康平、佐野淳哉、そして真っ赤な山岳賞ジャージを着たジュリアン・アレドンドモレノまでもがグリーンのリーダージャージ、フォルッナート・バリアーニを守って働いた。

ついに最終周回。ゴールスプリントに向けてスプリンターたちが激しく位置取りを争う。第2ステージを制したマキシミリアーノ・リケーゼ（チームNIPPO）が2勝目かと思われたが、「今日はギリギリまでガマンして、ラスト150からスプリントした」と語る西谷が人差し指を天に突き上げ「一番！」のサインでゴールした。

天　候	気　温	観 客 数
晴　れ（11時現在）	24.6℃	120,000人

6th Stage 第6ステージ 東京 Tokyo

5.27 sun

日比谷シティ前→大井埠頭周回コース
走行距離：112.7㎞
（パレード1.2㎞）14.7㎞＋（7.0㎞×14周）
スタート：11：00

【区間1位プロフィール】
西谷泰治（愛三工業レーシング）

1981年2月1日広島県生まれ、31歳。日本大学を卒業した2003年以来ずっと愛三工業レーシング所属。2006年ツール・ド・北海道総合優勝、2009年全日本選手権優勝、2010年ツール・ド・ランカウイ第4ステージ勝利、2011年ジャパンカップ2位と、アジアを代表する選手の一人。5月25日現在アジアツアーランキング3位。

●東京stスターター　石黒克巳（財）JKA会長

東京ステージ上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	西谷泰治	愛三工業レーシングチーム	2時間23分21秒
2	マキシミリアーノ・リケーゼ	チーム NIPPO	+.00.00
3	マクシム・アヴェリン	アモーレ・エ・ヴィータ	+.00.00
4	アディク・オスマン	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.00.00
5	ショー・パトリック	ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ	+.00.00

東京ステージ個人総合上位5名

順　位	選　手　名	所　属	タ　イ　ム
1	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	15時間28分26秒
2	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO	+.00.22
3	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ	+.03.23
4	トマ・ルバ	ブリヂストン・アンカー	+.03.30
5	クリス・バトラー	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	+.06.36

バリアーニが個人総合制す

●個人総合時間

順位	選手名	所属	タイム	タイム差
1	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	15:28'26"	―
2	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO	15:28'48"	0'22"
3	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ	15:31'49"	3'23"
4	トマ・ルバ	ブリヂストン・アンカー	15:31'56"	3'30"
5	クリス・バトラー	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	15:35'02"	6'36"
6	鈴木　譲	シマノレーシングチーム	15:35'11"	6'45"
7	キャメロン・ワーフ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	15:35'27"	7'01"
8	ブレイズ・ソノリー	ブリヂストン・アンカー	15:35'30"	7'04"
9	佐野　淳哉	チーム NIPPO	15:37'04"	8'38"
10	ヴィエスタース・ルクセヴィクス	アモーレ・エ・ヴィータ	15:37'14"	8'48"
11	ワン・カンポー	香港チーム	15:37'17"	8'51"
12	増田　成幸	宇都宮ブリッツェン	15:39'18"	10'52"
13	西谷　泰治	愛三工業レーシングチーム	15:40'19"	11'53"
14	マリーノ・パランドリ	アモーレ・エ・ヴィータ	15:41'24"	12'58"
15	アディク・オスマン	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	15:41'56"	13'30"
16	ジャオ・ペンダ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	15:42'22"	13'56"
17	ウィル・クラーク	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	15:42'58"	14'32"
18	マリウス・ヴィズィアック	マトリックス・パワータグ	15:43'15"	14'49"
19	シュー・ガン	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	15:43'31"	15'05"
20	ヤン・インホン・ロナルド	香港チーム	15:44'22"	15'56"
21	初山　翔	宇都宮ブリッツェン	15:45'15"	16'49"
22	平塚　吉光	シマノレーシングチーム	15:45'22"	16'56"
23	清水　都貴	ブリヂストン・アンカー	15:48'27"	20'01"
24	山下　貴宏	マトリックス・パワータグ	15:48'47"	20'21"
25	福島　晋一	トレンガヌ・サイクリングチーム	15:49'14"	20'48"
26	ジョナサン・ラブロック	ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ	15:49'17"	20'51"
27	ショー・パトリック	ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ	15:49'43"	21'17"
28	狩野　智也	チーム UKYO	15:49'54"	21'28"
29	アミルル・ファクルディン・マズキ	トレンガヌ・サイクリングチーム	15:50'57"	22'31"
30	グウォ・ハオティン	香港チーム	15:51'23"	22'57"
31	西薗　良太	ブリヂストン・アンカー	15:52'25"	23'59"
32	黒枝　士揮	日本学生自転車競技連盟選抜	15:52'59"	24'33"
33	ネイサン・アール	ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ	15:54'33"	26'07"
34	普久原　奨	宇都宮ブリッツェン	15:54'43"	26'17"
35	品川　真寛	愛三工業レーシングチーム	15:55'48"	27'22"
36	鈴木　真理	キャノンデール・スペースゼロポイント	15:56'18"	27'52"
37	山本　元喜	日本学生自転車競技連盟選抜	15:56'25"	27'59"
38	中村　誠	宇都宮ブリッツェン	15:56'51"	28'25"
39	安井　雅彦	日本学生自転車競技連盟選抜	15:58'29"	30'03"
40	ヂャン・ジンラ	香港チーム	15:58'51"	30'25"
41	栂尾　大知	パールイズミ・スミタ・ラバネロ	16:01'02"	32'36"
42	吉田　隼人	ブリヂストン・アンカー	16:05'58"	37'32"
43	伊藤　雅和	愛三工業レーシングチーム	16:06'18"	37'52"
44	飯野　智行	宇都宮ブリッツェン	16:06'28"	38'02"
45	マキシミリアーノ・リケーゼ	チーム NIPPO	16:07'07"	38'41"
46	木村　圭佑	日本学生自転車競技連盟選抜	16:07'37"	39'11"
47	シャルル・アミン	トレンガヌ・サイクリングチーム	16:07'59"	39'33"
48	鈴木　謙一	愛三工業レーシングチーム	16:08'31"	40'05"
49	内間　康平	チーム NIPPO	16:08'36"	40'10"
50	畑中　勇介	シマノレーシングチーム	16:09'00"	40'34"
51	マクシム・アヴェリン	アモーレ・エ・ヴィータ	16:09'21"	40'55"
52	ヂャン・ジンウェイ	香港チーム	16:10'15"	41'49"
53	池部　壮太	マトリックス・パワータグ	16:11'33"	43'07"
54	シーケオング・ロー	OCBCシンガポール・コンチネンタルサイクリングチーム	16:11'47"	43'21"
55	大久保　陣	パールイズミ・スミタ・ラバネロ	16:12'37"	44'11"
56	辻　善光	チーム UKYO	16:12'38"	44'12"
57	入部　正太朗	シマノレーシングチーム	16:12'45"	44'19"
58	清水　良行	チーム UKYO	16:13'11"	44'45"
59	福田　真平	愛三工業レーシングチーム	16:13'26"	45'00"
60	伊丹　健治	ブリヂストン・アンカー	16:14'24"	45'58"
61	廣瀬　佳正	宇都宮ブリッツェン	16:16'24"	47'58"
62	斉藤　祥太	チーム UKYO	16:25'53"	57'27"

総合ポイント賞・個人総合山岳賞・団体総合時間賞]

●個人総合ポイント

順位	選手名	所属	堺	美濃	南信州	富士山	伊豆	東京	総合ポイント
1	西谷　泰治	愛三工業レーシングチーム	7	10	3		15	34	69
2	マキシミリアーノ・リケーゼ	チーム NIPPO	5	25				30	60
3	マリウス・ヴィズィアック	マトリックス・パワータグ		20	9		8	13	50
4	ワン・カンポー	香港チーム			8		25	5	38
5	アディク・オスマン	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム		9			9	14	32
6	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO	1		20		10		31
7	ショー・パトリック	ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ		19				12	31
8	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO			25		3		28
9	マクシム・アヴェリン	アモーレ・エ・ヴィータ		12				16	28
10	キャメロン・ワーフ	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	9		12				21

個人総合ポイント賞獲得の西谷

●個人総合山岳

順位	選手名	所属	堺	美濃	南信州	富士山	伊豆	東京	総合ポイント
1	ジュリアン・アレドンドモレノ	チーム NIPPO		3	6	12	3		24
2	フォルッナート・バリアーニ	チーム NIPPO		3	3	15	2		23
3	ブレイズ・ソノリー	ブリヂストン・アンカー			5	3	5		13
4	増田　成幸	宇都宮ブリッツェン				5	8		13
5	畑中　勇介	シマノレーシングチーム		10	2				12
6	クリス・バトラー	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム				10	1		11
7	佐野　淳哉	チーム NIPPO			3		5		8
8	ヤロスラフ・ダブロフスキ	アモーレ・エ・ヴィータ				8			8
9	ヤン・インホン・ロナルド	香港チーム			3	4			7
10	ウィル・クラーク	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム			5		1		6

個人総合山岳賞獲得のアレドンドモレノ

●団体総合時間

順位	所属	堺	美濃	南信州	富士山	伊豆	東京	総合時間
1	チーム NIPPO	0:10'15"	11:28'18"	11:59'44"	2:06'03"	13:39'57"	7:10'03"	46:34'20"
2	チャンピオンシステム・プロサイクリングチーム	0:10'08"	11:28'18"	12:11'05"	2:12'17"	13:37'43"	7:10'03"	46:49'34"
3	アモーレ・エ・ヴィータ	0:10'38"	11:28'18"	12:09'21"	2:10'39"	13:41'11"	7:10'03"	46:50'10"
4	ブリヂストン・アンカー	0:10'33"	11:28'18"	12:10'30"	2:08'50"	13:42'22"	7:10'03"	46:50'36"
5	宇都宮ブリッツェン	0:10'39"	11:28'18"	12:16'20"	2:13'29"	13:51'36"	7:10'03"	47:10'25"
6	香港チーム	0:10'22"	11:28'18"	12:22'11"	2:15'53"	13:46'02"	7:10'03"	47:12'49"
7	シマノレーシングチーム	0:10'36"	11:28'37"	12:16'56"	2:15'49"	14:04'05"	7:10'03"	47:26'06"
8	ジェネシス・ウェルス・アドヴァイザーズ	0:10'15"	11:28'18"	12:16'20"	2:13'51"	14:12'05"	7:10'03"	47:30'52"
9	愛三工業レーシングチーム	0:10'22"	11:28'18"	12:28'02"	2:22'31"	14:00'45"	7:10'03"	47:40'01"
10	マトリックス・パワータグ	0:10'42"	11:28'37"	12:22'11"	2:27'14"	14:03'52"	7:10'37"	47:43'13"
11	日本学生自転車競技連盟選抜	0:10'50"	11:28'18"	12:32'27"	2:20'54"	14:01'32"	7:10'03"	47:44'04"
12	トレンガヌ・サイクリングチーム	0:10'36"	11:28'18"	12:30'44"	2:24'19"	14:03'26"	7:10'18"	47:47'41"
13	チーム UKYO	0:10'39"	11:28'37"	12:32'27"	2:25'30"	14:24'15"	7:10'22"	48:11'50"

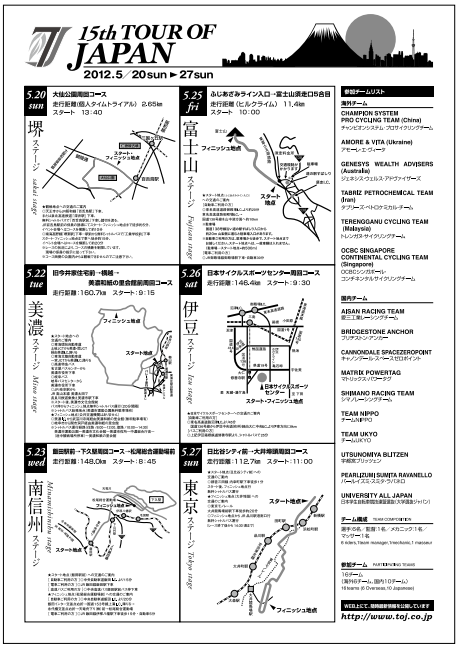
団体総合時間賞を獲得したチーム NIPPO

広報ツール

ポスター、チラシ（表）

大会HP **http://www.toj.co.jp/**

大会オフィシャルグッズ



チラシ（裏）

CYCLE SPORTS 5月号、BiCYCLE CLUB 5月号、funride 5月号

自転車専門誌・広告掲載

パブリシティ（テレビ）

第 15 回ツアー・オブ・ジャパン総集編「ツアー・オブ・ジャパン 2012~ からだ一つ自転車一つで戦う男たち ~」
2012 年 6 月 16 日（土）13:00~13:55　BS フジ放映

SPORT
（5 月 20 日放映）

NewsPLUS5

東海テレビスーパーニュース

15thTOUR OF JAPAN
南信州ステージ（飯田ケーブルテレビ）

NBS スーパーニュース

abn ステーション

SBC ニュースワイド

ANN ニュース

SPORT
（5 月 27 日放映）

銀輪の風
～世界のシクロ・リポート～

● 15th Tour of Japan 関連 OA 番組一覧

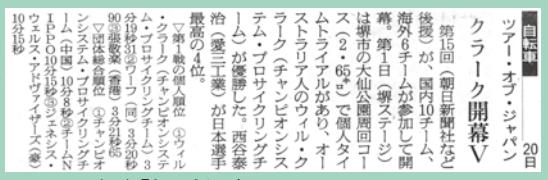
放映日		番組名	放送波
5 月 20 日	日	SPORT	フジテレビ
5 月 22 日	火	NewsPLUS5	岐阜放送
5 月 22 日	火	東海テレビスーパーニュース	東海テレビ
5 月 23 日	水	NewsPLUS5	岐阜放送
5 月 23 日	水	15thTOUR OF JAPAN　南信州ステージ	飯田ケーブルテレビ
5 月 23 日	水	NBS スーパーニュース	長野放送
5 月 23 日	水	abn ステーション	長野朝日放送
5 月 23 日	水	信州 845	NHK 長野放送局
5 月 23 日	水	SBC ニュースワイド	信越放送
5 月 23 日	水	TSB NEWS 報道ゲンバ	テレビ信州
5 月 26 日	土	ANN ニュース	静岡朝日テレビ
5 月 27 日	日	SPORT	フジテレビ
6 月 16 日	土	ツアー・オブ・ジャパン 2012　～からだ一つ　自転車一つで戦う男たち～	BS フジ
6 月 25 日	月	銀輪の風～世界のシクロ・リポート～	BS-TBS

5月20日（日）「nikkansports.com」

5月21日（月）「朝日新聞」

堺

5月20日（日）
「msn産経ニュース」



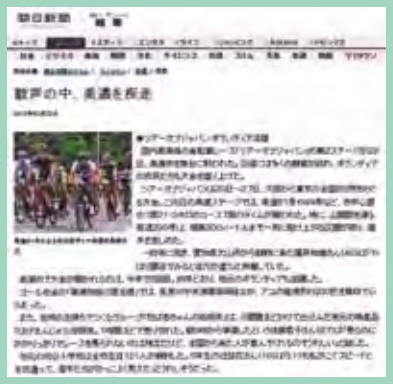
5月21日（月）「朝日新聞」

5月21日（月）「日刊スポーツ」

6月5日（火）
「日本経済新聞」

5月22日（火）「岐阜新聞」

美濃



5月23日（水）「asahi.com」

5月23日（水）「朝日新聞」

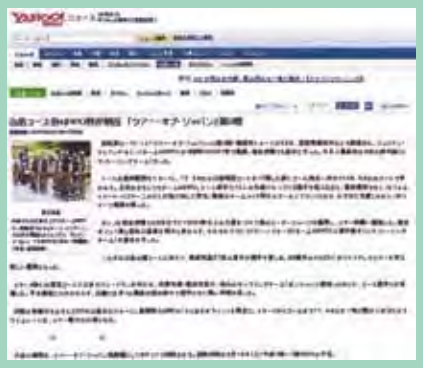
5月23日（水）
「岐阜新聞」

5月23日（水）「読売新聞」

5月23日（水）「中日新聞」

5月23日（水）
「下野新聞」

パブリシティ（新聞・WEB・雑誌）



5月23日（水）「yahooニュース」

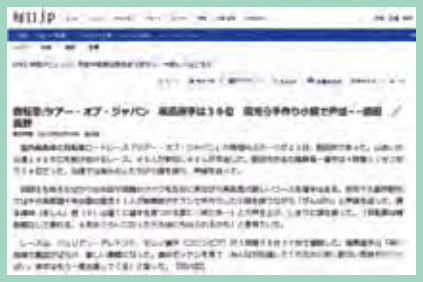
5月23日（水）
「シクロワイヤード」

5月24日（木）「南信州新聞」

南信州

5月24日（木）「信濃毎日新聞web」

5月24日（木）「毎日新聞・長野」



5月24日（木）「毎日jp」

5月24日（木）「信濃毎日新聞」

5月24日（木）「信州日報」

富士山の急坂に挑む

自転車のツアー・オブ・ジャパン

国際自転車競技連合（UCI）公認で国内最大級のロードレース「第15回ツアー・オブ・ジャパン」（自転車月間推進協議会主催、朝日新聞社など後援）が25日、富士山ステージ（小山町）を舞台に競技が行われた。海外を含め一線級の選手16チーム69人が富士山の急坂に挑んだ。

同ステージは、ふじあざみライン入り口から富士山須走口5合目までの11・4キロで、高低差1200メートル。平均勾配値10・5％という過酷な条件で、大会最大の難関という。レース途中から小雨が降る中、霧も出て標高2千メートル地点まで、最短40分で駆け上がった。

20日に開幕したレースは8日間で全6ステージ（総走行距離581・85キロ）がある。これまでに堺、美濃、南信州を回り個人総合優勝などを争う。

26日は第5ステージ（146・4キロ）の伊豆市で午前9時半から、日本サイクルスポーツセンターの周回コースを走る。

富士山ステージに向け一斉にスタートした選手たち＝小山町のふじあざみライン入り口付近

5月26日（土）「朝日新聞」

◇25日◇静岡・小山町11・4キロコース◇

自転車月間推進協議会主催、日刊スポーツ新聞社後援

UCI公認の国際サイクルロードレース第4戦は、ふじあざみライン入り口から富士山須走口5合目までの12００メートルを駆け上がるヒルクライムで争われ、チームNIPPO（日本）のフォルッナート・バリアーニ（37＝イタリア）が40分23秒で優勝、同チームのジュリアン・アレドンド・モレノ（23＝コロンビア）が2位に入った。バリアーニは第3戦はモレノと同タイムの2位だったが、雪辱した。個人総合時間でも8時間31分48秒で首位に立ったバリアーニは「予想以上にきついコース。5～6キロ過ぎてからが勝負と思っていた。最終日までリーダージャージーを守り抜きたい」と話した。第5戦は26日、静岡・伊豆市で行われる。

【第4戦上位成績】❶バリアーニ40分23秒❷モレノ40分42秒❸バトラー（チャンピオンシステム）41分21秒【個人総合時間】❶バリアーニ8時間31分48秒❷モレノ8時間32分6秒❸ダブロフスキ（アモーレ・エ・ヴィータ）8時間35分9秒

富士山ステージ優勝のバリアーニ©TOUR OF JAPAN 2012

5月26日（土）「日刊スポーツ」

富士山

5月26日（土）「静岡新聞」

伊豆

増田、山岳総合4位
団体5位で最終Sへ

5ステージを行い、宇都宮ブリッツェンは増田成幸が2度の山岳ポイントを獲得して18位でフィニッシュ。個人総合山岳ポイントで4位に浮上し、静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンター周回コース（12・2キロ×12周＝146・4キロ）で第15回ツアー・オブ・ジャパン（第5日は26日、個人総合時間も四つ順位を上げて12位に入った。団体総合でも5位に順位を上げ、最終ステージに臨む。

レースは1周目の8キロ地点から増田を含む11人が飛び出し、メーン集団とは最大2分半まで差を広げた。ラスト2周でメーン集団が先頭を吸収。最後は最終周にアタックを仕掛けた海外勢5人によるゴールスプリントとなり、香港ナショナルチームの黄金宝が2位と2秒差の4時間32分10秒でステージ優勝を飾った。増田は6周目の山岳ポイントを通過、9周目の山岳ポイントでも2位通過のポイントも2位通過し、海外3選手に次ぐ山岳総合4位入った。

最終ステージは27日午前11時から、東京都品川区の大井埠頭周回コース（11・2キロ）で行われる。

▽第5ステージ（146・4キロ）
1 黄金宝（香港）4時間32分10秒
2 モレーノ（NIPPO）同
3 ヴィーダ同
4 ダブロフスキー（アモーレ・エ・ヴィータ）4時間51分29秒
5 ロンセン（チームNIPPO）13時間5分29秒
6 ボンドモレノ（コロンビア）同
7 ヴィーダ13時間15分57秒
8 ダブロフスキー13時間31分29秒
9 久保（宇都宮ブリッツェン）同
10 増田（同）13時間33分30秒
11 ロンセン13時間43分49秒
12 ヴィーダ13時間53分49秒
13 ダブロフスキー14時間9分49秒
14 久保14時間19分49秒
15 増田14時間29分49秒
16 ロンセン14時間39分49秒
17 ヴィーダ14時間49分49秒
18 ダブロフスキー14時間59分49秒
19 久保15時間9分49秒
20 増田15時間19分49秒

▽個人総合成績
1 ロンセン 13時間43分49秒
2 ヴィーダ 13時間53分49秒
3 ダブロフスキー 14時間9分49秒
4 久保 14時間19分49秒
5 増田 14時間29分49秒

▽ポイント賞
1 ロンセン 13時間33分30秒
2 増田 13時間43分49秒
3 ヴィーダ 13時間53分49秒
4 ダブロフスキー 14時間9分49秒
5 久保 14時間19分49秒

▽山岳賞
1 増田 13時間33分30秒
2 ロンセン 13時間43分49秒
3 ヴィーダ 13時間53分49秒
4 ダブロフスキー 14時間9分49秒
5 久保 14時間19分49秒

▽団体総合
1 チームNIPPO 39時間38分31秒
2 宇都宮ブリッツェン 39時間38分31秒
3 チャンピオンシステム 39時間49分49秒
4 アモーレ・エ・ヴィータ 39時間59分49秒
5 ヴィーニファンティーニ・ナビアックス 40時間10分49秒
6 日本ナショナルチーム 40時間20分49秒
7 ジャパンサイクルリーグ 40時間30分49秒
8 ブリヂストンサイクリングチーム 40時間40分49秒
9 ヴィクトワール広島 40時間50分49秒
10 シマノレーシング 41時間1分49秒
11 ジャパンナショナルチーム 41時間11分49秒
12 ヴィクトワール広島U23 41時間21分49秒
13 ジャパンナショナルチームU23 41時間31分49秒

msn産経ニュース

スポーツ

輝いた学生“Wエース” 「ツアー・オブ・ジャパン」で日本人最高位

5月27日（日）「msn産経ニュース」

香港ワンV

第15回ツアー・オブ・ジャパン第5戦・伊豆ステージ

◇26日◇静岡・伊豆市1周12・2キロ×12周＝146・4キロコースで自転車競技の東京都選手権、日本サイクルスポーツ新聞社後援、UCI公認の国際サイクルロードレース第5戦はツール・ド・ジャパン・カンポーネンス❷ジャオ・ペダル（チャンピオンシステム）4時間32分12秒❸ジュー・ガン（同）4時間32分14秒（個人総合時間）❶バリアーニ13時間5分29秒❷モレノ（NIPPO）13時間5分29秒❸ダブロフスキー（アモーレ・エ・ヴィータ）13時間8分28秒

15th TOUR OF JAPAN

伊豆ステージ優勝のワン・カンポーネンス＝TOUR OF JAPAN 2012

チームのワン・カンポーネンス（香港）が4時間32分10秒で優勝した。ワンは「チームにはいいスプリンターがいるので、明日はチームとしてステージ優勝したい」と話した。個人総合時間争いは、チームのフェルナート・バリアーニ（イタリア）が2位の香港選手に39秒差をつけ、最終日を首位で迎える。

5月27日（日）「日刊スポーツ」

トップ級選手 自転車で力走

伊豆でフェス

自転車の祭典「サイクルフェスティバル伊豆2012」が26日、伊豆市の日本サイクルスポーツセンターで開かれた。

国内最高峰の自転車ロードレースをはじめ、多彩なイベントが人気を集めた。

ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」の伊豆ステージでは、国内外の強豪チームが全長約146キロのレースに挑んだ。

選手たちは大勢の観客の声援を受け、高低差の激しい難コースを力走した。

5月27日（日）「静岡新聞」

序盤から積極的なアタックを仕掛けた宇都宮ブリッツェンの増田＝静岡県伊豆市、阪本竜也さん撮影

5月27日（日）「下野新聞」

自転車

黄金宝が優勝
ツアー・オブ・ジャパン 26日

（朝日新聞社後援）

第15回大会第5戦が静岡・日本サイクルスポーツセンター周回コース（146・4キロ）であり、黄金宝（香港）が4時間32分10秒で走って優勝した。この日の個人山岳賞は増田成幸（宇都宮ブリッツェン）が獲得した。個人総合成績は、25日の第4戦を制したフォルツナート・バリアーニ（チームNIPPO）が首位につけている。

▽第5戦の個人成績
①黄金宝（香港）4時間32分10秒②ジャオ・ペダル（チャンピオンシステム）4時間32分12秒③徐剛（チャンピオンシステム）4時間32分14秒

▽第5戦までの個人総合成績
①フォルツナート・バリアーニ（チームNIPPO）13時間5分5秒②アルドンドモレノ（チームNIPPO）13時間5分27秒③ダブロフスキー（アモーレ・エ・ビータ）13時間8分28秒

5月27日（日）「朝日新聞」

バリアーニ総合V

第15回ツアー・オブ・ジャパン最終戦・東京ステージ

◇27日◇東京、品川区ほか112・7キロコース◇

自転車月間推進協議会主催、日刊スポーツ新聞社後援

UCI公認の国際サイクルロードレース最終第6戦は、日比谷シティ前スタート、大井埠頭（ふとう）14周回で行われ、チームNIPPO（日本）のフォルツナート・バリアーニ（37＝イタリア）が、15時間28分26秒で個人総合優勝を飾った。第4戦からの首位を守ったバリアーニは「富士山ステージが印象的。世界的に見ても厳しいコースできつかった」と話した。ステージ優勝は愛三工業レーシングの西谷泰治（31）。2時間23分21秒で53人でのゴールスプリントを制した。全6戦で初の日本人Vに「（2位の）リケーゼ選手に途中まで負けていたけど、最後まであきらめず、落ち着いていれば勝てると信じていた。勝てて良かった」と笑顔を見せていた。

15th TOUR OF JAPAN

個人総合時間賞のバリアーニ（中央）、東京ステージVと個人総合ポイント賞の西谷（左）、同山岳賞のモレノ＝TOUR OF JAPAN 2012

【個人総合時間上位最終成績】❶バリアーニ15時間28分26秒❷モレノ（NIPPO）15時間28分48秒❸ダブロフスキー（アモーレ・エ・ヴィータ）15時間31分49秒【第6戦上位成績】❶西谷泰治❷マキシミリアーノ・リケーゼ（NIPPO）❸マクシム・アヴェリンア上、2時間23分21秒

5月28日（月）「日刊スポーツ」

東京

バリアーニ総合初V

ツアー・オブ・ジャパン 27日

（朝日新聞社後援）

最終第6戦（東京ステージ）が東京・大井埠頭周回コースの計112・7キロであり、6戦の合計タイムで争われる個人総合は、イタリアのフォルツナート・バリアーニ（チームNIPPO）が15時間28分26秒で初優勝した。日本勢トップは鈴木譲（シマノレーシング）の15時間35分11秒で、首位と6分46秒差の6位。

東京ステージは西谷泰治（愛三工業）が2時間23分21秒で優勝した。西谷はステージのゴール前や通過順を6戦で競うポイント賞も獲得した。

他（愛三工業）①西谷泰治②マキシミリアーノ・リケーゼ（チームNIPPO）③マクシム・アヴェリン（チームNIPPO）＝いずれも2時間23分21秒（個人総合）①フォルツナート・バリアーニ（チームNIPPO）15時間28分26秒（個人総合）

msn産経ニュース

スポーツ

世界を視野に孤高の戦い 「ツアー・オブ・ジャパン」西谷の勝利は必然

2012.5.28 16:00

5月28日（月）「msn産経ニュース」

◆ツアー・オブ・ジャパン

日本人区間優勝

西谷、「世界と戦える」

自転車ロードレースの第15回ツアー・オブ・ジャパン最終第6ステージが27日に東京・日比谷シティ前～大井埠頭周回コース（11・2キロ）を14周（156キロ）して行われ、愛三工業の西谷泰治（31）が大集団によるゴール前スプリントを制して今大会初の日本人区間優勝を達成。同時に、2位のM・リケーゼ（チームNIPPO）を逆転し、総合ポイント賞も獲得した。総合優勝は大井埠頭周回コース11・2キロを14周して争われ、愛三工業チームが2時間23分21秒で優勝した。西谷はステージ優勝のほか、ポイント賞も獲得した。

◆第6ステージ（27日、東京・日比谷シティ前～大井埠頭周回コース、112・7キロ）

1 西谷泰治（愛三工業）2時間23分21秒
2 Max・リケーゼ（アルゼンチン、チームNIPPO）2時間23分21秒
3 アモーレ・エ・ビータ）2時間23分21秒
4 ボンドモレノ（コロンビア、チームNIPPO）15時間28分26秒
5 ダブロフスキー（アモーレ・エ・ビータ）15時間31分49秒
6 ロンセン（チームNIPPO）15時間33分30秒
7 ヴィーダ（アモーレ・エ・ビータ）15時間43分49秒
8 ダブロフスキー（アモーレ・エ・ビータ）15時間59分49秒
9 久保（宇都宮ブリッツェン）16時間9分49秒
10 増田（宇都宮ブリッツェン）16時間19分49秒
11 ロンセン16時間29分49秒
12 ヴィーダ16時間39分49秒
13 ダブロフスキー16時間49分49秒
14 久保16時間59分49秒
15 増田17時間9分49秒
16 ロンセン17時間19分49秒
17 ヴィーダ17時間29分49秒
18 ダブロフスキー17時間39分49秒
19 久保17時間49分49秒
20 増田17時間59分49秒

◇個人総合成績
1 フォルツナート・バリアーニ（チームNIPPO）15時間28分26秒
2 ボンドモレノ（コロンビア、チームNIPPO）15時間28分48秒
3 ダブロフスキー（アモーレ・エ・ビータ）15時間31分49秒

◇ポイント賞
1 西谷泰治（愛三工業）69点
2 マキシミリアーノ・リケーゼ（チームNIPPO）60点
3 マリウス・ビシアック（マトリックスパワータグ）50点
4 個人総合山岳賞 ジュリアン・アレハンドロ・ボンドモレノ（コロンビア、チームNIPPO）24点
5 ジュリアン・アレハンドロ・ボンドモレノ（コロンビア、チームNIPPO）20点
6 ヴィーダ（アモーレ・エ・ビータ）15点
7 ダブロフスキー（アモーレ・エ・ビータ）15点
8 ロンセン（チームNIPPO）13点
9 ヴィーダ（アモーレ・エ・ビータ）10点
10 ダブロフスキー（アモーレ・エ・ビータ）8点
11 ロンセン（チームNIPPO）6点
12 ヴィーダ（アモーレ・エ・ビータ）5点
13 ダブロフスキー（アモーレ・エ・ビータ）4点
14 久保（宇都宮ブリッツェン）3点
15 増田（宇都宮ブリッツェン）2点
16 ロンセン（チームNIPPO）1点

◇団体総合
1 チームNIPPO 39時間38分31秒
2 宇都宮ブリッツェン 39時間38分31秒
3 チャンピオンシステム 39時間49分49秒
4 アモーレ・エ・ヴィータ 39時間59分49秒
5 ヴィーニファンティーニ・ナビアックス 40時間10分49秒
6 日本ナショナルチーム 40時間20分49秒
7 ジャパンサイクルリーグ 40時間30分49秒
8 ブリヂストンサイクリングチーム 40時間40分49秒
9 ヴィクトワール広島 40時間50分49秒
10 シマノレーシング 41時間1分49秒
11 ジャパンナショナルチーム 41時間11分49秒
12 ヴィクトワール広島U23 41時間21分49秒
13 ジャパンナショナルチームU23 41時間31分49秒

◇

青いジャージーの西谷が、今大会最強スプリンターのリケーゼをゴール前で完全に抜き去った。両腕を広げ、全身で勝利を味わうようにゴールラインを駆け抜ける。初日から第5ステージまで、すべて外国勢に勝利を奪われてきた日本勢が、12万人の見守る最終ステージで意地を見せた瞬間だった。

「日本人が世界と戦えるところを見せることができた。昨年は震災の影響で中止。今年の後の大会で日本人が全部負けてたらすごく残念だったので、西谷は笑顔をはじけさせた。2008年以来の総合ポイント賞も獲得し、改めて国内最強スプリンターの実力を証明していた。（藤本敏利）

タイム差なしの27位でゴールしたチームNIPPOのフォルツナート・バリアーニ（37）となった。

パブリシティ（新聞・WEB・雑誌）

15th TOUR OF JAPAN

16チームが争う

20日の堺から27日の東京まで

第15回ツアー・オブ・ジャパン

国内最大規模の自転車ロードレース「第15回ツアー・オブ・ジャパン」（日刊スポーツ新聞社ほか後援）が20～27日に行われる。昨年は東日本大震災後の社会情勢を踏まえて中止したが、今年は20日の堺ステージを皮切りに27日の東京ステージまで、全6ステージ合計581・85㌔を、ブリヂストン・アンカーなど内外の有力16チームが走り抜ける。最も称賛されるのは「個人総合時間賞」。各チームはエースを総合王者に導びこうと、チームプレーを繰り広げる。また、個人がスプリント力を競うポイント賞、ヒルクライムステージでの山岳賞争いも見ものだ。詳しくは大会公式ホームページ＝http://www.toj.co.jp へ。

日本版ツール・ド・フランスのTOJ

◆第15回ツアー・オブ・ジャパン日程◆

順	日程	ステージ	コース	距離
❶	5月20日（日）	堺	大仙公園周回	2・65㌔
❷	5月22日（火）	美濃	旧今井家住宅前出発	160・7㌔
❸	5月23日（水）	南信州	飯田駅前出発	148・0㌔
❹	5月25日（金）	富士山	須走口5合目まで	11・4㌔
❺	5月26日（土）	伊豆	日本サイクルSS周回	146・4㌔
❻	5月27日（日）	東京	日比谷～大井埠頭周回	112・7㌔

※21日（月）24日（木）は移動日

5月6日（日）「日刊スポーツ」

ツアー・オブ・ジャパン
全ステージ

5月20日（日）「シクロチャンネル」

アジアの覇者は誰？

2004年以来となる
日本人の個人総合優勝に期待

TOUR OF JAPAN 2012

5月15日（火）「BICYCLE21」

「ツアー・オブ・ジャパン」20日から6ステージで開催　国内最大規模のロードレース

5月19日（土）「msn産経ニュース」

第15回ツアー・オブ・ジャパン

5月20～27日

全6ステージで熱戦

〈UCI公認国際自転車ロードレース〉

世界強豪選手集う

5月10日（木）「スポーツ産業新報」

ジャパン2012

6月20日（水）「CYCLE SPORTS 7月号」

チームNIPPO
ツアー・オブ・ジャパンを席捲

6月20日（水）「funride 7月号」

15th Tour of Japan

新緑の日本を駆け抜ける
国内最大級ステージレース

1年ぶりに復活したツアー・オブ・ジャパン

6月20日（水）「BiCYCLE CLUB 7月号」

他 144 件掲載

日本が生んだ世界のスポーツ KEIRIN
KEIRIN
KEIRINはサイクルスポーツを応援しています

Billboard
この事業は
競輪の補助を
受けて開催します

JAPAN
KEIRIN
http://ringring-keirin.jp

SUBARU

会場風景

15th TOUR OF JAPAN

SPEED チャンネル
SUBARU
YAMAHA
Vittel
SBAA
SHIMANO
THULE
MATRIX

133

SUBARU
SPEED チャンネル
KEIRIN
MITSUBISHI
TOTO
THULE
YAMAHA
Vittel
SHIMANO
SBAA

携帯で見るなら
スピチャンモバイル
テレビで見るなら
SPEED チャンネル
バンクに一番近い情報はスピードチャンネルで！

TOTOR
SPEED
YAMAHA

SHIMANO
105
104
101

SPEED
YAMAHA
SHIMANO

THULE
MATRIX

会場風景

SHIMANO
TECHNICAL SUPPORT

MAVIC
MAVIC

Vittel

MITSUBISHI
TOTOR
SUBARU
Champion System

Champion System
Champion System

Champion System

●実況の白戸太朗氏

Sakai

●子供たちによる一輪車演技

Mino

●パレード走行の古田肇岐阜県知事（中央）

●牧野飯田市長（左）

●子供たちに向けた
「自転車市民権」PR

Minami Shinshu

会場風景

Fujisan

●富士山を望むスタートエリア

Izu

●サイクルスポーツセンターを疾走する選手たち

Tokyo

●大勢の観客で賑わう東京st

15th TOUR OF JAPAN

ツアーオブジャパンHP http://www.toj.co.jp